令和８年度　小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名　**小学校　生活科**

改善の重点
①　気付いたことを基に考えることができるようにするために、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。 ②　単元における評価の方法、場面を工夫し、授業改善に生かすようにすること。

１　設定理由

生活科の目標の冒頭に「具体的な活動や体験を通して」とある。生活科は、児童が体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われることを重視している教科であり、低学年児童の発達の特性から、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、資質・能力が育成されることを目的としている。そのため、まず育成を目指す資質・能力を明確にし、右に示す学習過程を基本として単元の指導計画を作成する必要がある。

基本とする学習過程
1) 思いや願いをもつ
2) 活動や体験をする
3) 感じる・考える
4) 表現する・行為する
（伝え合う・振り返る）
※いつも 1)～4)が順序よく繰り返されるものではない。

①では、気付きの質が高まる学習活動の工夫について挙げている。児童が、対象との関わりを繰り返したり深めたりする活動や体験の充実は、気付きの質を高めることにつながる。さらに、「気付いたことを基に考えること」で児童の中で生まれた一つ一つの気付きが関連付けられ、質的に高まっていく。指導計画の作成の際には、思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気付きの質を高めることを意識する必要がある。

②では、評価の方法の工夫を挙げている。生活科では、特定の知識や技能を取り出して指導するのではなく、児童が具体的な活動や体験を通して学んでいくことから、評価は、結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。そのため、単元の目標を明確にするとともに、評価計画を立て、評価規準を具体的な児童の姿として表しておくことが大切である。評価方法については、教師による行動観察や作品・発言分析等のほかに、自己評価や児童相互の評価など、様々な立場からの評価資料を収集することで、児童の姿を多面的に評価することが可能になる。

生活科の授業を通して、確実に資質・能力を育成するために、児童それぞれの状況を把握できる評価の方法、児童の行動や発言等の見取り方を工夫することが大切である。

２　研究を進めるに当たって

（１）実践に当たっては、以下の点に留意すること。

①　気付きの質を高めるため、試行錯誤や繰り返す場の設定、伝え合い交流する場の工夫、振り返り、表現する機会の在り方、学びを豊かにする学習指導と評価を重視すること。

②　児童の考え等の見取りの方法、場面について、工夫して評価を行うこと。

（２）参考とすべき資料

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）